

はじめに

令和7年度がスタートしました。各学校におかれては、新たな教職員、希望や期待にあふれた新入生や進級を機会に新たな目標を設定し、意欲にあふれた子ども達を目の前にして、気持ちも新たに充実した教育活動が展開されていることと思います。

ただ、社会全体に目を移すと、米国のトランプ大統領が打ち出した「関税対策」に世界各国が戦々恐々としている面もあれば、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに「大阪万博」が開催され、世界中から人が集まる一大イベントが開催されています。

さて、四万十市に目を移すと、本年度より新たな「四万十市教育振興基本計画」にのっとり、本市の教育活動が展開されることになりました。数多くの指定事業にも取り組むことになっていますが、その中でも、四万十市内の全小中学校を対象にした指定事業としては、「保幼小中連携モデル地域実践研究事業（3年間）」と「令和の授業を創る」推進プロジェクト令和の授業DX（1年間）が挙げられます。

前者においては、関係機関が連携して育てる5つの非認知能力を意識した指導を全ての教育活動を通して行うこと等により、子ども達の心豊かな成長に繋がる取り組みであると思います。

また後者では、単元を通して身に付ける力を明確にし、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図り、45分、50分で完結する授業づくり。さらにクラウドの特徴を生かした学習者主体の授業づくり等々、今一度授業改善に取り組むことにより子ども達の「学力の定着と向上」に繋がるものと期待しています。

四万十市教育研究所並びに教育支援センター（ふれあい学級）としても、教職員の研修の充実と各種諸調査の分析・検証・発信を行うとともに、不登校児や不登校傾向及び長欠児童生徒並びにその保護者の困り感に寄り添いながら、個に応じたタイムリーな支援を関係機関と連携して取り組んでいきたいと思っています。

本年度も所長以下、研究員2名、不登校指導員4名、事務職員1名、SC（スクールカウンセラー）1名、SSW（スクールソーシャルワーカー）2名、総勢11名の職員体制でスタートしています。オール四万十の一員としてお役に立てるよう力を合わせて取り組んで参りたいと思います。どうぞご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

四万十市教育研究所